

過去の大津波被害などについて パネル掲示をしています。 (～3/14までの予定)

- 石巻市の運河交流館において、過去の大規模津波被害や、今時津波の概要、旧北上川、鳴瀬川河口部の復旧状況に関する資料を掲示しています。
- 東日本大震災から3年、改めて防災意識の啓発、高揚を目的としています。

※運河交流館の外部からご覧頂けます。

忘れない。

東日本大震災と救命・救援ルート確保・復旧への記録

津波の被害を受けた被災地は、震災後、復旧が進んでいますが、震災当時の様子を伝えるために、このパネルを設置しています。

震災前、震災後、震災当時の様子を伝えるために、このパネルを設置しています。

このパネルは、震災当時の様子を、震災当時の写真や映像、震災当時の資料などを、震災当時の様子を伝えるために、このパネルを設置しています。

震災当時の様子を伝えるために、このパネルを設置しています。

震災当時の様子を伝えるために、このパネルを設置しています。

869年 貞観津波

東北地方の古くからの津波は、東日本大震災のはるか昔から、たびたび襲来し、被害をもたらしてきました。震災の発生を受けてからは、過去の津波の歴史や研究が明らかになってきました。

平安朝時代に宇多天皇の御代によって編纂された『日本書紀』に、東日本大震災の発生について、今から1100年以上前の貞観9年(西暦869年)に発生した「貞観津波」が記されています(『東の津波』も参照)。

多賀城の門前には、東の松山(古松山)と呼ばれる古松が残り、高松津波が来たことが、古松の根が折れたという伝説があります。

『東の松山』という地名を聞いたという伝説もあります。

運河交流館位置図



パネル展示の様子

